

令和2年度 食育推進状況調査結果報告

1 調査の目的

- 食育推進ネットワーク加入施設で実施された食育活動について把握するとともに、今後の食育活動方針を確認する資料とする

2 調査の内容

(1) 調査票

資料1

(2) 対象

熊本市子どもの食育推進ネットワーク加入施設 288か所

〔 保育所113か所、幼稚園26か所、認定こども園80か所、
地域型保育事業49か所、子育て支援センター20か所 〕

(3) 実施期間

令和3年(2021年)2月22日から3月17日

(4) 実施方法

郵送で配布、ファックス又は郵送で回収。〆切期間後に督促を送付。

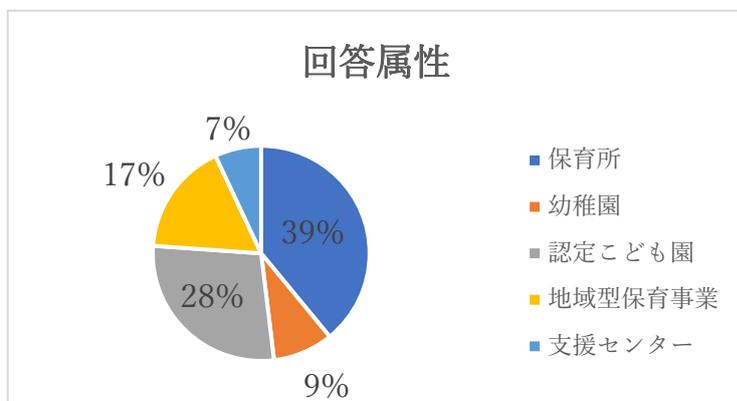
(5) 回収率

平均 91.0%。

施設	配布数	回答数	回収率
保育所	113	104	92.0%
幼稚園	26	24	92.3%
認定こども園	80	75	93.8%
地域型保育事業	49	45	91.8%
支援センター	20	14	70.0%
合計	288	262	91.0%

(6) 回答属性

回答施設は、保育所、幼稚園、認定こども園で全体の76%。



3 調査結果

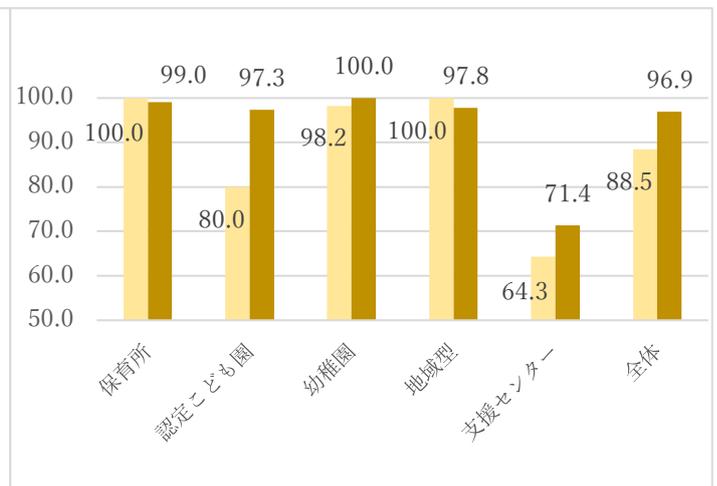
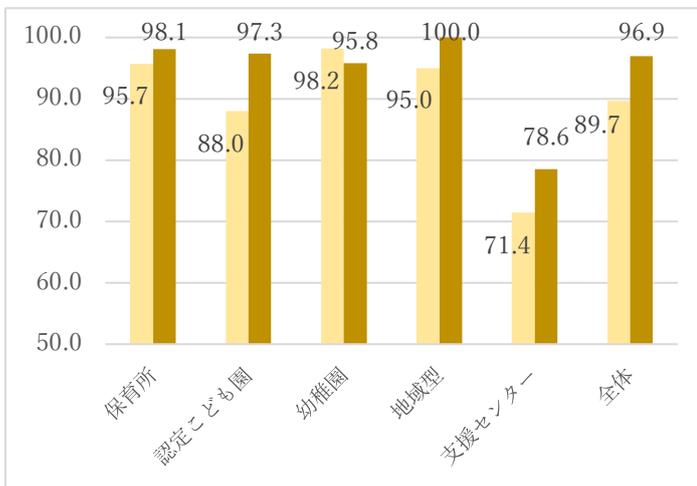
(1) 「楽しく食べるこどもに」に成長していくための、「具体的な5つの目標」の取組状況

- 令和元年度と比較すると、5つの項目全てで、取組の割合が増加した。
- コロナ禍において、④食事づくりや準備に主体的にかかわる、に関しては、3歳以上児が居る保育所、認定こども園、幼稚園においては、減少がみられた。感染拡大防止のため、お手伝いやクッキング等の食育が中止になったためであると思われる。
- ⑤食生活や健康に主体的にかかわる、に関しては、支援センターを除く全ての施設で増加している。コロナ禍において、給食時の黙食や、日常の手洗い、うがいなど、新型コロナウイルス感染症の予防のための指導がなされたものと考えられる。

R1年度 R2年度
数値(%)

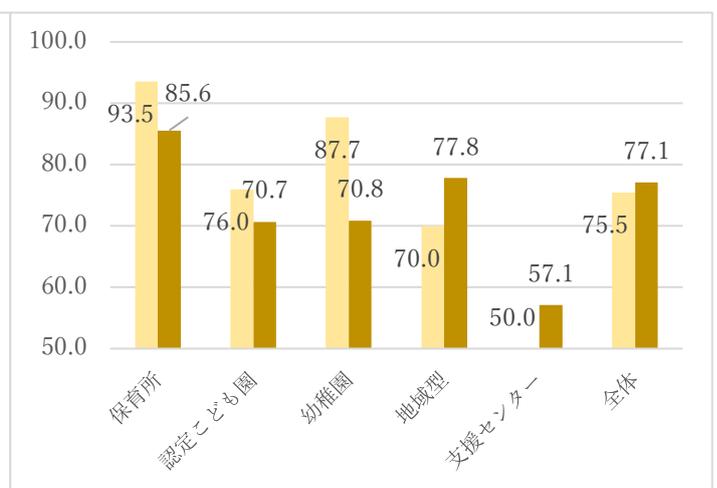
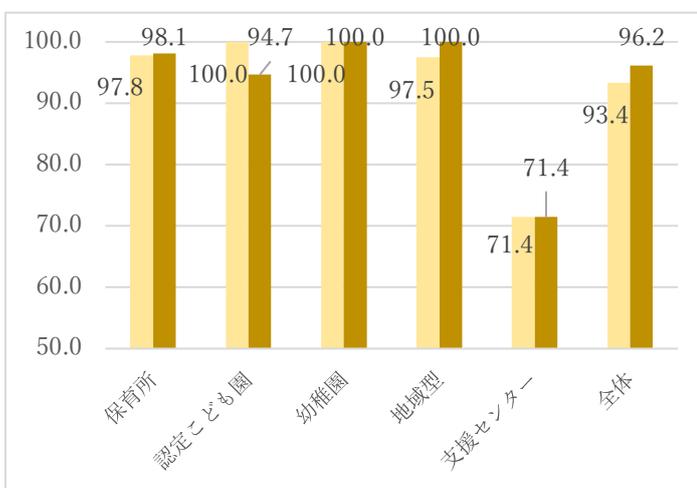
①食事のリズムがもてる

②食事を味わって食べる

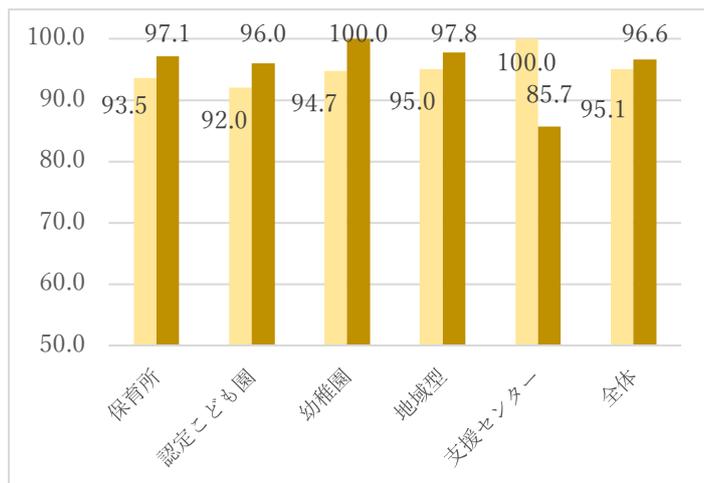


③一緒に食べたい人がいる

④食事づくりや準備に主体的にかかわる

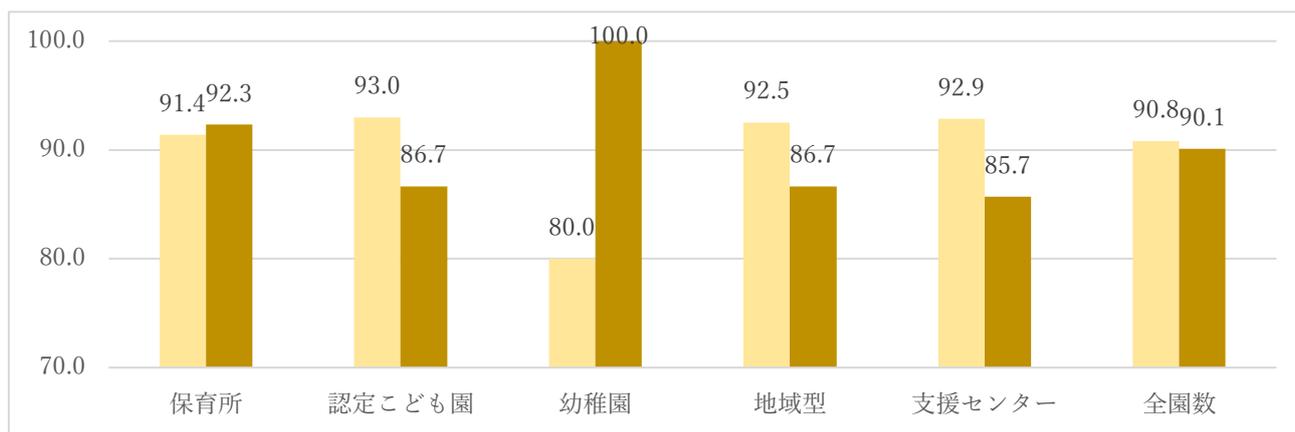


⑤食生活や健康に主体的にかかわる



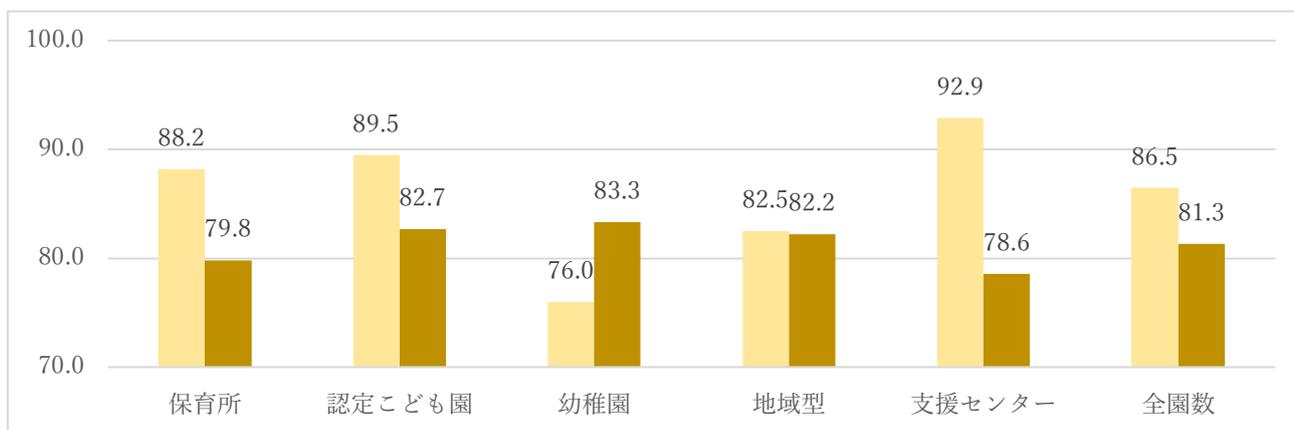
(2) 活動テーマ1「しっかり食べよう朝ごはん（早寝・早起き・朝ごはん）」の啓発状況

- ・ 9割の施設で取り組まれており、活動の定着がみられた。
- ・ 幼稚園では、元年度より2割増加し、全ての園で取り組まれた。



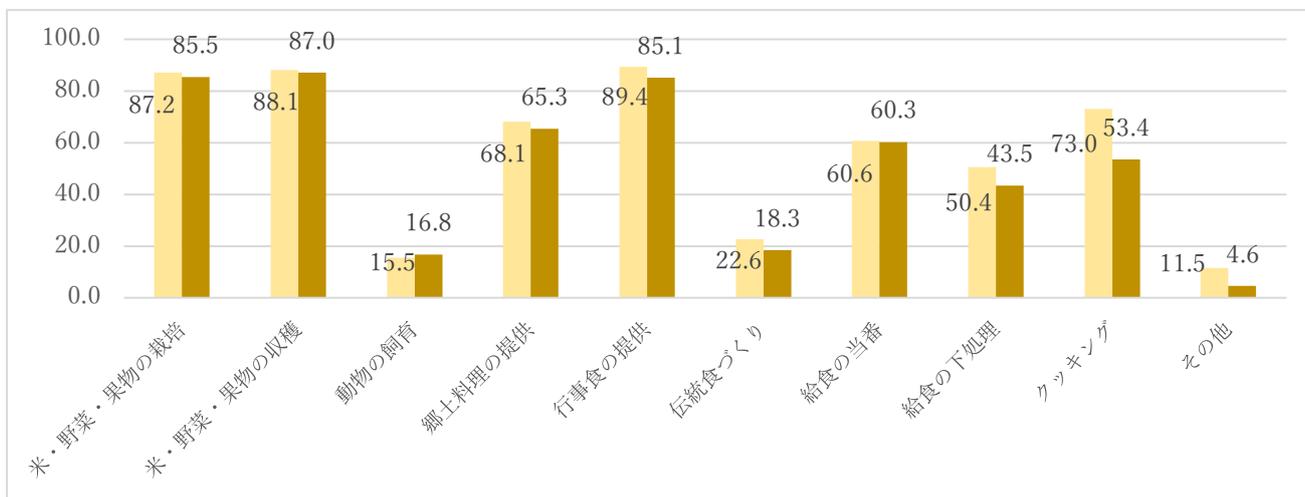
(3) 活動テーマ2「いっしょに食べるとおいしいね（共食のすすめ）」の啓発状況

- ・ 共食については、幼稚園で実施率が向上したが、コロナの影響で、元年度と比較すると取組割合は減少した。
- ・ コロナ禍における、家庭での共食について、その効果も含めが情報提供の必要性を感じる。



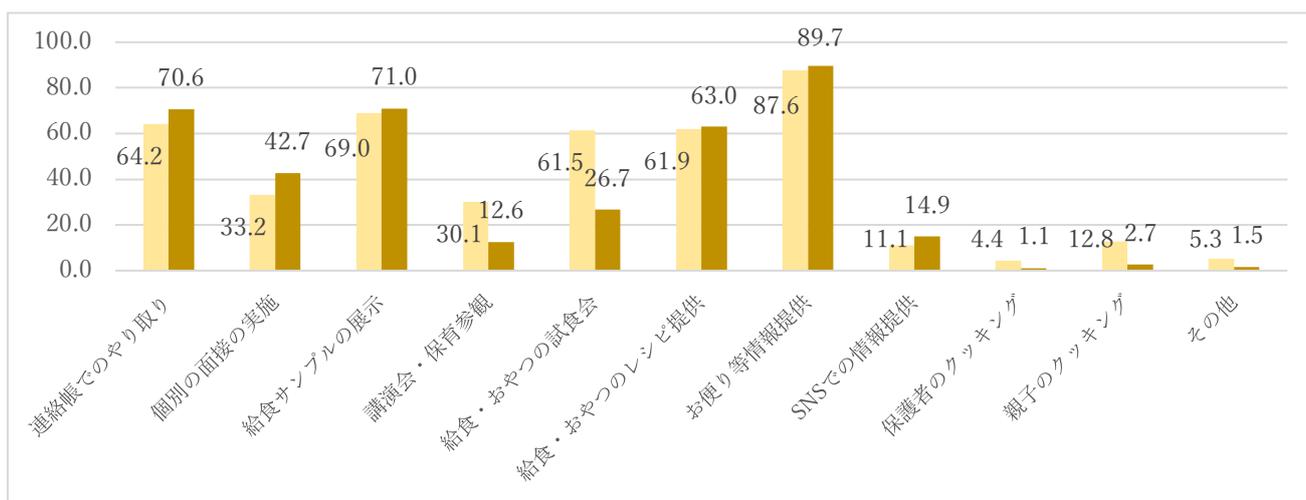
(4) 子どもへの食育活動で実施しているもの

- 子どもへの食育で実施率の高いものは、①米・野菜・果物の収穫、②米・野菜・果物の栽培、③行事食の提供の順であった。
- コロナ禍により、調理活動については、低下がみられた。クッキングは、元年度より2割実施率が低下し、給食の下処理、伝統食づくりも実施率が低下した。



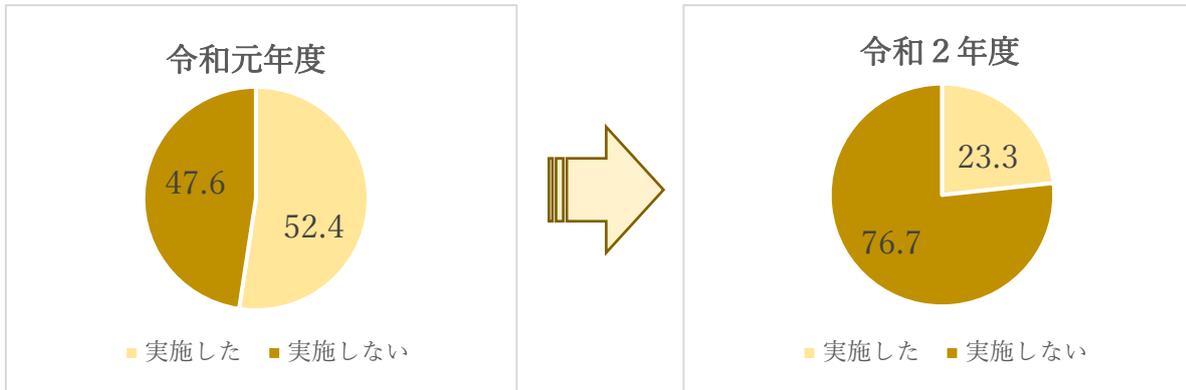
(5) 食を通じた保護者への支援として実施しているもの

- 保護者への支援として実施率の高いものは、①お便り等での情報提供、②給食サンプルの展示、③連絡帳でのやり取りの順であった。
- 保護者が参加する、給食やおやつを試食会は、4割弱実施率が低下した。講演会や保育参加も、2割程度の低下がみられ、施設から保護者への直接的な情報提供の機会が減少していた。



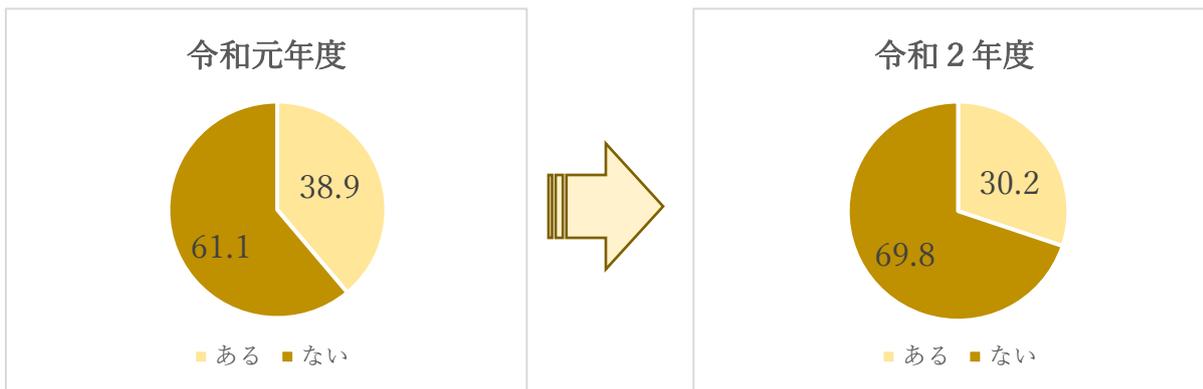
(6) 地域や団体等と連携した食育活動の実施の有無

- 食育の推進に関して、乳幼児を預かる施設での、地域や団体等の多様な関係者との連携及び協働での食育活動の実施状況は、元年度に比較すると、約3割実施率が低下した。



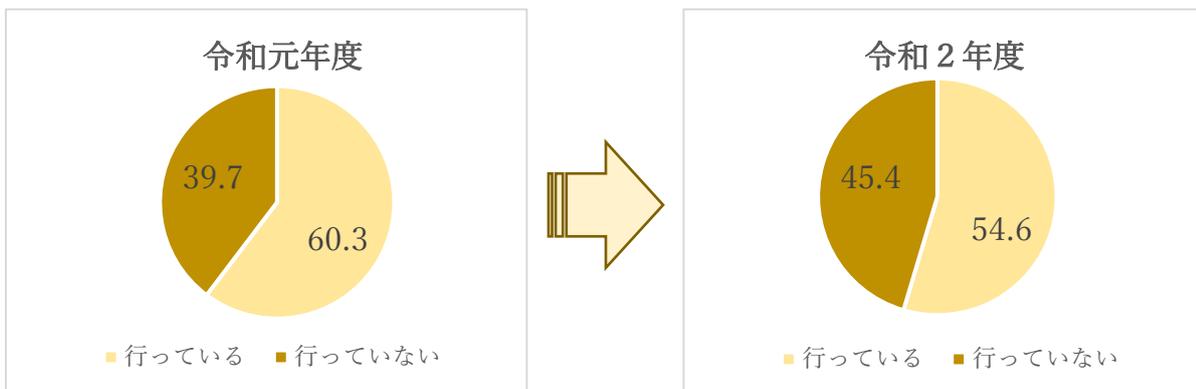
(7) 地域の未就園児童とその保護者への食育の実施や情報発信の機会の有無

- 約3割の施設で、地域の子ども達に対して、食育に関する情報を発信されていた。
- その主な内容は、食育に関するおたよりやレシピの提供、などの情報提供が中心であった。コロナ禍で、元年度は実施の多かった、もちつきや七夕会など園行事への参加は、実施されていない。

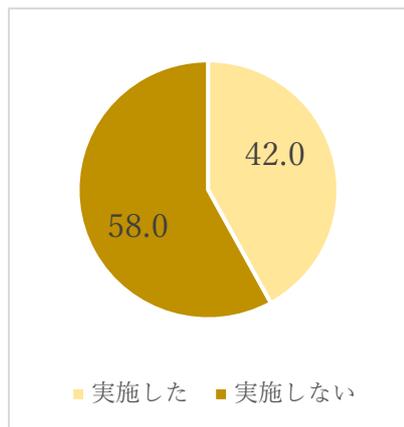


(8) 食育推進ネットワークの地域研修会、全体研修会の内容について、施設内で復講を行っているか

- 研修会等の復講を行っているとの回答は、54.6%で元年度より低下した。2年度は研修会等の中止により、実施率が低下している。

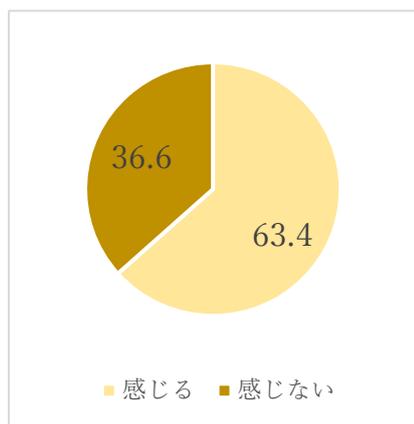


(9) 新型コロナウイルス感染症を踏まえ、新たな食育に関する取組を実施したか



- ・ 42%で、新たな食育に関する取組を行われていた。その主な内容は、
 - ①手洗いなど、衛生面に関する食育
 - ②ソーシャルディスタンスの確保等の食育
 - ③給食献立の工夫（メニュープランナー、リクエストメニュー、月曜はおかわりの日等）
 - ④黙食の指導
 - ⑤お便りの充実と園内で感染対策を行ったうえで、実施できる食育の工夫
 - ⑥食育指導の工夫（クイズ、実演、絵や写真を利用して実施）
 - ⑦保護者との面接や個別の相談の実施

(10) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、子どもの食生活に、何らかの影響を与えていると感じるか



- ・ 63%の施設で影響を感じると回答があった。その具体的な内容は、
 - ①食事を楽しめない、会話をしながらの、楽しい食事の場が、なくなった。
 - ②クッキングやお手伝い等の、体験活動が減少した。
 - ③家庭食の機会が増加し、子どもが好きな物ばかり食べている。偏食が目立った。
 - ④外食できず、家庭食が増加した。
 - ④食文化に触れる機会が減少した。
 - ④「美味しいね～」「もぐもぐ、かみかみ」等、保育者の顔の表情が伝わらない。
 - ⑦運動不足で食欲がなくなった。

4 考 察

- 1 「楽しく食べる子どもに」成長していくための、5つの目標については各施設とも概ね取組ができていた。全体をみると全ての項目で実施率の上昇しており、取組の定着がみられた。
- 2 活動テーマ、「しっかり食べよう朝ごはん」の啓発については、家庭へ繰り返し伝え定着を図ることが重要である。
- 3 活動テーマ、「いっしょに食べるとおいしいね（共食のすすめ）」の取組については、家庭での食事の機会が増加しているコロナ禍の現在だからこそ、共食の効果を含めた家庭での共食の大切さについて、更なる情報提供の必要性を感じる。
- 4 コロナ禍で体験型食育の実施率が低下している。コロナ禍においても体験型の食育が効果的に実施できるよう、教材や媒体の工夫、伝え方の方法や工夫が必要である。
- 5 食育の推進に関しては、ネットワークを活用した連携及び協働での活動が活発に行われるよう、まずは施設内での食育の方向性を共有し、そしてネットワーク内での連携強化を図る必要がある。